



【思考力、判断力、表現力等 A話すこと・聞くこと】における学習支援ツールの活用（中学校）

| 資質能力 | ICT 活用方法 | 期待できる効果 | 活用例 |
|--|--|--|--|
| 話題の設定・情報の収集・内容の検討 構成の検討、考えの形成・表現、共有・話合いの進め方の検討 | ○情報の収集・整理・共有 ・ICT 端末を活用して材料を収集し、話したり聞いたり話し合ったりする目的に合っているかを考え、取捨選択したり整理したりする。 ・目的に合った材料を収集し、タブレットに保存する。 ・異なる立場や多様な考えなどの視点から材料を整理する。その後、教師に送信する。 | ・集めた情報を、付箋機能を使ってカテゴリごとに分けたり、保存したりできるため、 必要な時に情報を取り出すことができる。 ・集めた情報（付箋）を並べて比較、検討して、伝えたいことを明確にし、「A 話すこと・聞くこと ア」の指導事項を指導するのに有効に活用できる。 ・教師は、 個々が収集、整理の状況や集めた情報を一括して確認できる ため、手立てを考えることができる。 | 第1学年「話の構成を工夫しよう」 ・付箋機能を使い、異なる立場や多様な考えなどの視点から、集めた材料を整理する。 ・目的に合った材料を取捨選択し、マーキングする。 |
| | ○内容・構成の検討 ・考えや根拠となる事例を、タブレット上で付箋にまとめ、原稿（スピーチメモ）を構成する。 ・必要に応じて、集めた情報を資料として活用する。 | ・タブレット内で自由に書き込みをしたり、追加したり消去したりすることができ、 考えを整理できる 。また、必要に応じて入れ替えるなど、 構成が容易にできる 。 ・集めた情報や意見を書いた付箋など、タブレットの画面を移すことで、 プレゼン資料としても活用できる 。 | 第2学年「魅力的な提案をしよう」 ・モデル原稿をもとに、プレゼンの示し方について、相手や目的を意識して検討し、タブレット内にあるプレゼンのスライドを並び替えたり、相手を引き付ける表現を工夫したりする。 ・自身の作品を撮影し、繰り返し視聴することで、伝えたことが明確に伝わる表現になっているかを自覚し、よりよい表現を工夫する。 |
| | ○モデル動画・モデル原稿の提示 ・モデルとなる発表原稿を生徒タブレットに提示し、生徒は付箋、スポット機能等を使い、相手や目的、話し手の意図に応じて構成や表現の工夫を書き込む。 | ・モデル動画を繰り返し視聴することができ、 着目させたい部分を強調 できる。 ・必要に応じて 自由に視聴 できる。 | |
| | ○考えの共有 ・考えを書きこんだ画面を教師に送信する。 ・教室の画面に生徒のシートを映し、考えを比較し、発問をして本時の課題に迫る。 | ・自分の考えを教師に送信することで、教師が 生徒の考えを把握 できる。 ・大画面で共有することで、 互いの立場を知る ことができる。 | |
| ○自分（集団）の表現の確認 ・個々の話す様子や集団での話合いを撮影する。 ・撮影動画を再生し、改善個所を探して練習を繰り返す。必要に応じてペアや小集団で撮影動画を見合い、よさや改善点を助言し合ったり話し合ったりする。 ・改善後の様子を再度撮影し、学習前と学習後の自分（集団）の様子を比較する。 | ・自分や仲間の話す様子を 客観的に見る ことができ、 目的や相手、意図に応じて表現できているかを自覚する機会 になる。また、繰り返し聞いたり、必要な部分だけを確認したりすることで、ポイントを絞って改善することができる。 ・ 見届け・評価を短時間で 行うことができる。 | 第3学年「合意形成に向けて話し合おう」 ・撮影した話合いをもとに、考えの類似点、相違点を明らかにすることができたか、論点は見いだせたか、意見の調書を生かして結論を見いだせたかなどの視点で振り返り、次の話合いに生かす。 | |



【思考力、判断力、表現力等 B 書くこと】における学習支援ツールの活用(中学校)

| 資質能力 | I C T 活用方法 | 期待できる効果 | 活用例 |
|-------------------|--|--|--|
| 題材の設定・情報の収集・内容の検討 | ○情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> テーマに沿って各自情報収集し、タブレットに保存する。集めた情報は他の仲間と共有することもできる。 集めた情報を並べ、自分のテーマに合っているか、知りたい情報かどうかを考え、取捨選択する。その際、比較検討する視点を与え、自分が集めた情報を並べて考え書き込みをし、教師に送信する。 | <ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を、付箋機能を使ってカテゴリごとに分けたり保存したりできるため、必要な時に情報を取り出すことができる。 教師は、個々の収集・整理の状況や集めた情報を一括して確認できるため、手立てを考えることができる。 | 第1学年「情報を整理して書こう」 <ul style="list-style-type: none"> 説明したい事柄をそれぞれ付箋にまとめ、タブレット上でカテゴリで分けたり線でつないだりして整理する。付箋機能を使ってマッピングも可能。 付箋を並べ、目的に合った情報を精査し、取捨選択する。 |
| | ○アンケート <ul style="list-style-type: none"> 知りたいことについて、自らアンケートを作成し、学級の生徒に配信し、返信してもらう。 | <ul style="list-style-type: none"> 作成から、配信、集約までの一連の流れを、短時間で効率的に行うことができる。 | |
| 構成の検討、考えの形成、記述、共有 | ○構成の検討 <ul style="list-style-type: none"> 情報や考えをまとめた付箋、使用したい写真、図表等を並べ替えたり矢印でつないだりして構成を考える。 必要に応じて、メモを書き加えたり付箋を追加したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> タブレット上で付箋等を動かしたり、メモをしたり、複数の情報等を組み合わせたりすることが容易にでき、試行錯誤しながら取り組むことができる。 生徒の進捗状況を確認、手立てや評価につなぐことができる。 | 第2学年「根拠の適切さを考えて書こう」 <ul style="list-style-type: none"> 生徒のタブレットにモデル文（意見と根拠の付箋）を送信する。 自分の意見を支える根拠としてどの根拠を取り上げるとよいかを検討し、根拠の付箋を並べ替えたり、マーカーで書き込みをしたり線でつないだりして、意見を支えるものになっているかを比較・検討する。 |
| | ○モデル文の提示 <ul style="list-style-type: none"> タブレットに提示された複数のモデル文を読み比べ、付箋、スポット機能等を使い、マーカーを引いたり印を付けたりして工夫を書き込む。 教師に送信した後、教室の大画面に生徒たちのシートを映して比較し、発問をして本時の課題に迫る。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒も教師も、比較したい部分や、工夫や効果を考えさせたい部分をアップしたり、自由に書き込みをしたりできる。 教師が生徒の考えを把握できる。 生徒のシートを並べて提示し、比較したり関係付けたりして示すことができる。 | |
| 推敲 | ○文章の推敲 <ul style="list-style-type: none"> 文書作成ソフトで下書きを入力、または記述した原稿を写真にして取り込む。 タブレット上で工夫した叙述や言葉に、罫線または、付箋等の機能を活用し、書き込みを行う。(個・ペア・グループ等) 修正した文章を、教師に送信する。 推敲前と推敲後の文書を比較する。 | <ul style="list-style-type: none"> 容易に書き加え、削除、並べ替え等ができるため、試行錯誤して考えを上げることができる。 コメント機能を用いてコメントを入れることもでき、互いに助言し合うことに有効に活用できる。 作品に直接書き込みを行わなくてよい分、意欲を低下させることなく単元の学びを進めることができる。 意図的な表現についての見届け・評価を行うことができる。 | 第3学年「情報を読み取って文章を書こう」 <ul style="list-style-type: none"> 書いた小論文をタブレットで撮影し、仲間と共有する。(個でも可) 互いに文章を読み合い、改善点や良い点を付箋機能を活用してコメントする。(推敲して書き込みをする) |



【思考力、判断力、表現力等 C 読むこと】における学習支援ツールの活用(中学校)

| 資 能 力 | I C T 活 用 方 法 | 期 待 可 能 な 効 果 | 活 用 例 |
|--|--|---|--|
| 構 造 と 内 容 の 把 握 | ○教材について理解する ・実際の場面等について写真や動画で補足説明をする。 | ・生活経験が不足している部分を写真や動画などで 視覚化して補う ことができる。 | ・全学年全単元で可能 |
| | ○各段落の役割や展開の工夫を読み取る ・教材文を取り入れたタブレットを使い、一部の段落を切り取ったり並び替えたりすることで、段落の役割（文章全体に与える効果）や展開の工夫を読み取る。 ・タブレットに提示された、段落ごとに分けられた教材文から、一部の段落を切り取ったり並び替えたりして、考えたことを付箋、スポット機能等を使って書き込み、教師へ送信する。 | ・マーカーを引く、書き込みをする、比較したい部分を切り取るなど、タブレット内で自由に書き込みをしたり、消去したり並び替えたりすることができ、段落の役割（文章全体に与える効果）や展開の工夫を、視覚的に読み取ることができる。 ・付箋は 並べかえることが容易 であり、グループで画面を共有することで 視覚化しながら学習を進める ことができる。 | 第1学年「ダイコンは大きな根？」 ・タブレット内の文章の4段落目を切り取り、教科書と比較しながら段落の役割や文章全体に与える効果を読み取る。 ・一人一人が読み取ったことを教室の画面に映し、意図的に取り上げて全体で考える。 |
| 精 査 ・ 解 釈 、 考 え の 形 成 、 共 有 | ○根拠となる叙述を明確にする ・読む視点をもつために、着目した叙述にマーカーペン（文学的文章であれば、情景描写、心情描写、行動描写など、叙述の種類で色分けする）を引く。 ・一人一人の考えを画面に映し出し、読む視点を共有する。 | ・言葉と言葉、図表などとの関係が、 視覚化 できる。 ・線を消したり、書きかえたりすることが 容易 であり、色分けすることで、考えの変容も分かりやすく示すことができる。共有することで交流時に根拠となる叙述を示しやすい。 | 第2学年「字のない葉書」 ・着目した叙述に線を引くなどして印を付ける。 ・一人一人の考えを画面に映し出し読む視点を共有する。 |
| | ○情報を正確に読む ・タブレット上に、印や矢印、付箋等を付けながら言葉と言葉、文と文、文と図表等を関係付けて読む。 ・印をつけた部分と自分の考えとつないでタブレットやノートに記述したり、交流時に提示したりする。 | ・タブレットに 直接書き込み、保存ができる ため、必要に応じて、前場面の読みを確認することができる。教師にとっては、 評価にも活用できる 。 | ・共有した言葉を手掛かりに、印や付箋等を付けながら言葉と言葉、文と文などを関係付ける。 ・考えを書き込んだり、線を引いたり消したり、考えを色分けして整理したりすることも容易にできるため、じっくり読むことができる。 |
| | ○考えを共有する ・タブレットに提示された読みと自分の読みを比較して、考えを広げたり深めたりする。 ・仲間が着目した叙述や考えを見ながら、自分の読みと比べる。 | ・自分で選択して仲間の考えを知ることができるため、 主体的な取組につながる 。 ・自分のペースで取り組むことができ、仲間の考えをヒントにして 考えを再構築できる 。 ・（教師）自分の考えを教師に送信することで、教師が 生徒の考えを把握できる 。 | ・視覚化することで理解が深まる。 |



【知識及び技能】における学習支援ツールの活用（小・中学校）

| 資力 | I C T 活用方法 | 期待できる効果 | 活用例 |
|-----------------|--|--|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <p>○漢字や文法の小テストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師から送付された小テストや、ドリル学習用のワークシートに取り組む。 ・教師に送付して、返信された結果を見直す。 ・結果の集計をもとに、苦手な部分に繰り返し取り組む。 ・家庭学習でも活用。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業を早く終えた児童生徒が空いた時間等に自主的に学習を進めることができ、待ちの時間を生み出さない。 ・取り組んだことがタブレット内に蓄積されるため、間違えたところや苦手なところを自分で確かめることができる。 ・データであるため、個々の実態に合わせて、ワークシート等を繰り返し使用することが容易にできる。 ・（教師側）個々の学習状況を一括して確認できるため、手立てを考えることができる。 | <p>各学年 漢字、文法等の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例文を参考にしながらタブレット上で文章を作る。 ・仲間と共有して、多くの漢字・熟語に触れる。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | <p>○情報の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章中の事物について、動画や写真をタブレット上で提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・（教師側）動画や写真を提示することで、児童生徒の生活経験の差を補ったり、より豊かに内容を想像できるような支援をしたりすることができる。 | <p>全学年 図表等が用いられている教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表が使われている本や新聞記事をタブレット上に取り込む。 ・図表やグラフの効果について付箋機能等を使ってまとめる。 ・自分の考えに合うように文章と対応させて提示したり引用したりする。 |
| | <p>○情報の管理・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報や必要な情報をフォルダ等にまとめておく。 ・集めた情報をタブレット上で共有する。 ・グループ分けをしてフォルダ等にまとめる。 ・言語活動を行うときに必要に応じて、情報を活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・（教師側）必要な情報をまとめておくことで、児童生徒の発達段階、学習内容に適したデータベースが作成できる。 ・必要な情報を効率よく自分で探すことができる。 | |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <p>○古文独特のリズムに親しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古文の音読を聞いたり、動画で伝統芸能を視聴したりする。 ・自分の音読の様子を録画してリズムに親しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文独特のリズム等を実際に聞いて、音読しながら親しむことができる。 | <p>全学年 古典教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書等を活用して動画を視聴する。 ・音読の様子を録画し、動画と比べて録画を見返したりして、自分の音読に生かす。 ・古典の世界を知る。 |
| | <p>○教材について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の場面や物を写真や動画で補足説明をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景や教材の特徴などを、写真や動画などで視覚化して補うことができる。 | |
| | <p>○書写</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の二次元コードを活用するなどして、手本を動画で確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が確認したいタイミングで、必要なポイントを確認することができるため、自主的な取組ができる。 | <p>全学年 書写の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースに合わせて、手本動画を繰り返し見ながら練習する。 |



日常の授業(全領域・全単元)における学習支援ツールの活用(小・中学校)

| I C T 活用方法 | 期待できる効果 |
|--|---|
| <p>○情報の収集・分類・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端末を使って知りたい情報を収集し、保存する。 ・相手や目的、意図に応じて情報を分類・整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を、カテゴリごとに分けたり保存したりできるため、必要な時に情報を取り出すことができる。 ・個々がどのような資料を収集、分類しているか把握できるため、評価や支援につながることができる。 |
| <p>○学習計画の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元学習計画や本時の学習計画等を個々のタブレットに送信し、本時の学習の見通しをもたせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を作成しなくても、画面に映し出して全体で確認したり、児童生徒全員に送信することで、必要に応じて、単元における本時の位置や、前時までの内容を確認したりできる。 |
| <p>○資料提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材に応じて、時代背景や写真、図表などを資料として提示し、教材内容についての理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活経験が不足している部分を写真や動画などで視覚化して補うことができる。 ・個々に送信することで、必要に応じて自由に見ることができる。 |
| <p>○板書の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、授業後に板書を撮影して個々の端末に送信する | <ul style="list-style-type: none"> ・場面と場面をつないで考えたり、前時までの学習を振り返ったりするために、自由にタブレットで確認する。 |
| <p>○振り返りの蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを記入したノートを写真に残し、送信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の指導改善に生かしたり、記録に残すことで評価の資料としたりすることができる。 ・児童生徒は、学びを振り返ったり自己の変容を自覚したりすることができる。 |
| <p>○辞書としての活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたい語句の意味や使い方を調べ、保存する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・机上の辞書と併用して、調べたことを「語彙手帳(例)」に保存していくことで、必要に応じて再度確認できる。 ・調べた言葉についてまとめたりスピーチをしたりする言語活動につなげることができる。 |
| <p>○考えの可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報や考えを図などで表し、伝えたいことの順序や構成を考えたり、発表で資料として活用したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事柄の関係性を理解したり、考えをまとめたりする際に、複数の情報(事実・考え)を並べたり図式化したりすることで理解を深めることができる。 ・資料を使って考えを発表する際に活用できる。 |
| <p>○考えの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大画面で全員の考えを並べて提示したり、意図的に取り出して提示したりする。 ・個々で考えたことを、グループや全体に送信し、発表の際の資料として活用したり、仲間と考えを共有したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師が一括して考えを把握できるため、全体交流の際に意図的に指名して課題を焦点化したり、発問を工夫したりできる。 ・指名された発表者以外の考えも全体で共有することができるため、考えを比較しながら自分の考えをまとめたり、個人追究で参考にしたりできる。 |